

【数学】

帝京の数学を解くにあたっての注意事項を以下に示すとまず、第1問の必答問題は地道に計算していけば答を出せる問題がほとんどであるが、時折整数などの難問が1つ含まれていることがある。その時は気持ちを切り替えてその問題は最後に回すという作戦に出ても良いだろう。

次に第2から第6問の選択問題であるが

- 1、平面・立体図形（ベクトルを含む）
- 2、関数
- 3、場合の数・確率
- 4、数列
- 5、その他1問 となるだろう。

今年度は「その他1問」が複素数であると予想され、新課程初年度ということもあってそう難問であるとは考えにくい。従ってこれを選択するのが賢明であると思われる。

残り2問であるが、まず「数列」は難易度の判断が付きやすいので見た時に選択するか否かを判断しよう。図形、関数、場合の数、確率は複雑さの度合いがすぐには判別できないので難しい所であるが特に場合の数・確率は数え上げに時間がかかる可能性が高い。

がんばって欲しい。

【英語】

帝京の問題を解く上で最も大切なことは180分の中での3科目がミックスされた中での「総合的時間配分」にある。早く処理できる科目からやっていく方が良い。帝京の長文問題では人体に関するものが出る可能性は高いと言える。例えば「必要睡眠時間（2014）」「喫煙者から提供される臓器（2013）」「睡眠不足と学習障害（2012）」「肥満が引き起こす病気と肥満の世界への蔓延（2011）」などから人体や日常生活の習慣関連の可能性は高い。とにかく単語力をぎりぎりまで上げておくことです。

選択問題はスピードを上げるため瞬時に4選択から選ぶ問題を中心に選ぶ。文法力に自信のある生徒なら整序英作で構わないが、最後に全科目の見直し時間の確保が更に重要なのでスピード処理を重視すべきだと思う。